

より良い職場環境の構築に向けて

スバルでは「自由闊達でアグレッシブな創造集団」を目指して、企業風土の改革に取り組んでいます。個性豊かな活力ある組織を目指し、賃金制度のみならずキャリアプランを描く制度、教育制度、さらには福利厚生制度に至る幅広い視点から従業員が今まで以上に果敢にチャレンジできる制度を構築しています。

人材育成

「やる気に満ちた自立型人材」の実現を目指して

「自ら問題を発見し解決に向けて行動できる人材」の育成を通じて、当社が求める人材像である「やる気に満ちた自立型人材」の実現を目指しています。

2010年度は、全階層で昇格時に「新任研修」を実施し、『論理的問題解決』を軸にしたカリキュラムを導入しま

した。また、ビジネススキルの習得・向上を目指したプロフェッショナルプログラムの実施、グローバル人材育成強化のための取り組みを進めました。2011年度は、グローバル人材育成を加速させ、組織力強化のため、職制向け研修の拡充に取り組みます。

■ 教育体系図

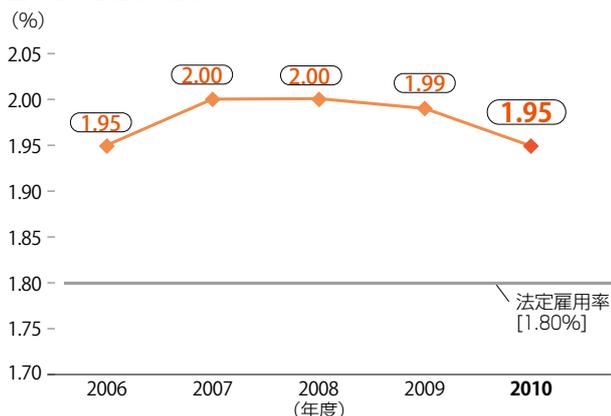
ミッショングレード ／職能資格		全社共通プログラム				各事業所プログラム	
		階層別プログラム	マネジメント強化	職能別プログラム	語学研修・国際化	自己啓発支援	
職制	E級	E級研修	職制向け専門研修 ex ●コーチング ●財務 等	プロフェッショナル プログラム ex ●ロジカルシンキング ●リーダーシップ ●タイムマネジメント ●プレゼンテーション ●財務分析 等	語学研修・国際化 各種プログラム	自己啓発支援 通信教育 等	各種プログラム・事業所研修 事業所研修 公的資格取得支援等
	G級	G級フォロー研修 新任G級研修					
	M級	M級フォロー研修 新任M級研修					
一般	T-S主事1	新任T-S主事1研修	考課者研修				
	T-S主事2	新任T-S主事2研修					
	T-S1	新任T1研修 新任S1研修					
	T-S2	新任T2研修 新任S2研修					
T-S3	新任T3研修 新任S3研修						
T-S4							

だれもが働きやすい職場づくり

障がい者雇用率1.8%達成を継続

障がい者雇用率は2011年3月時点で法定の1.80%を超えて1.95%となっており、現在160人の方が活躍しています。職場内の環境整備、工夫に関しては、工場内でユニバーサル化を推進しているため、家族に障がいをお持ちの従業員の意見を参考にしている部署もあり、職場における負担を軽減する努力を行っています。今後も継続的な採用活動に取り組み、障がいをお持ちの方が働く喜びを通して、輝くことができる社会の実現を目指していきます。

■ 障がい者雇用率推移

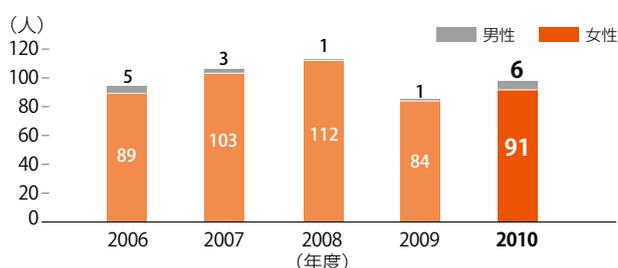


職場内にある自動扉のスイッチや作業台は、車いすの従業員に合わせた高さで設定しています。

仕事と家庭との両立を支援

従業員が個々の能力を存分に発揮するために、仕事と家庭の両立を支援し、働きやすい職場環境を整えることが重要と考えています。育児支援制度として、子どもが2歳の誕生日を迎えた最初の4月まで延長できる育児休業制度や、子どもが小学校4年生就学の始期まで利用可

■ 育児休暇取得者数推移



*年度をまたぐ取得者は両年度にカウントしています。

能な短時間勤務制度を導入し、子育てをする従業員が働きやすい職場づくりに取り組んでいます。また、従業員への制度の周知徹底を目的として『産休・育休ハンドブック』の発行、階層別教育における研修など、男女ともに制度を利用しやすい職場の理解醸成にも努めています。

なお、次世代育成支援対策推進法(次世代法)により、企業の自主行動計画を作成し、第一次期間(2005年4月～2007年3月)、第二次期間(2007年4月～2010年3月)において、計画を達成した結果、二度の厚生労働大臣認定(くるみんマーク)を取得しました。

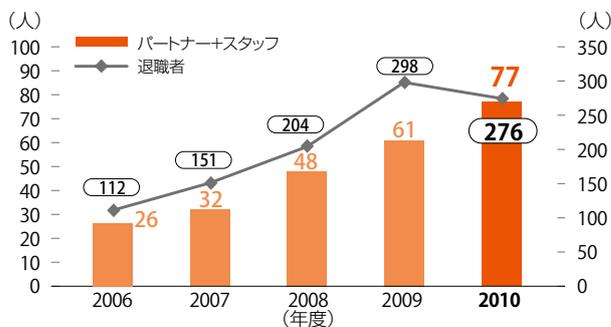


60歳定年後の再雇用の促進

当社では60歳定年後の就労問題の解決および人材の活用を図るため、2003年に定年後再雇用制度である「シニアパートナー制度、シニアスタッフ制度」を導入しました。その後「改正高齢者雇用安定法」によって義務化された、「定年後65歳までの雇用継続」へ対応するため、当制度の一部見直しを行い、定年後の再雇用を進めてきました。また、2006年度には、定年後再雇用による人材活用をさらに積極的に行うため、当制度の見直しを再度実施しました。今後も「シニアパートナー制度」を通じて、定年

を迎える従業員が持つ経験や能力を、後進の指導育成や技能の伝承に活かし、60歳定年後の再雇用促進に取り組んでいきます。

■ シニアスタッフ・パートナー雇用推移



ボランティア休暇制度^{※1}

東日本大震災からの復興に向け、従業員が仕事との両立を図りながら積極的にかつ安心してボランティア活動に参加できるように、「ボランティア休暇制度」を新設し、活動中の負傷を当社災害補償制度の対象としています。当制度は、1回につき最大10日間の休暇を年2回まで取得可能な休暇制度で、2011年5月末時点で14人の従業員が被災地を訪れ活動に参加しました。

※1 2012年3月末までの東日本大震災復興を目的とした活動を対象とし、週末の休日と合わせて利用すると、1回16日間の活動に年2回まで参加可能。

労使のコミュニケーション

相互信頼の関係を構築

当社と富士重工業労働組合は、円滑な企業運営と相互の意思疎通を図るため「労使協議会」を設置しており、

コミュニケーションを密に取りながら相互理解・相互信頼の関係を築いています。近年、労使関係は良好な状況を維持しています。

健康づくり

心身両面にわたる健康保持増進

当社は従業員の健康管理を積極的に推進しています。単に健康障がい防止するという観点のみならず、継続的かつ、計画的に心身両面にわたる健康保持増進に取り組んでいます。

具体的には、健康診断とその結果に基づく特定保健指導(メタボ対策、運動指導、メンタルヘルスケア、栄養指導など)や健康診断でC判定となった方への予防に向けた健康相談の実施、メンタル予防に向けたカウンセリング等、各事業所にスタッフを配置し疾病予防、健康管理に努めています。



熱中症予防研修

Close UP 健康を支援する立場から

不適切な食生活、運動不足、喫煙習慣などから起こされる生活習慣病や職業生活などにおける強い不安・過剰なストレス等から心の健康問題は、企業にとっても重要な課題となっています。このような「メタボ予備軍」や「心の不調」という黄色信号にいち早く気づいて改善することや、「健康」という青信号が灯り続けることをお手伝いすることが、私の役割だと考えています。



健康支援室 松井 真澄

元氣な企業は、従業員の皆さまの健康があってこそです。これからも健康支援室として心身両面からサポートしていきけるように努めていきます。

労働安全衛生

安全衛生基本理念

「安全衛生は全ての業務に優先する」

安全衛生基本方針

労働災害、交通事故、疾病、火災等災害のゼロをめざし、全員が安全衛生の重要性を認識し合い、設備・環境・作業方法の改善と管理・意識の向上を図り、安全快適な職場作りを進める。

労働災害ゼロに向けて

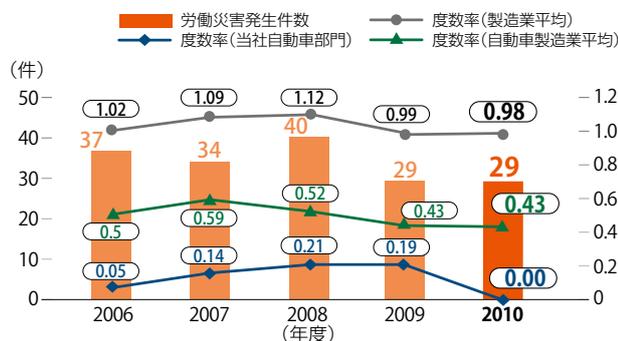
当社は一人ひとりの安全意識・職場管理の向上と危険を排除する活動に取り組んでいます。意識面ではKYT^{※1}、ヒヤリ・ハット^{※2}活動の実施、管理面では1992年からTSZ^{※3}という各職場の自主管理活動を早期に導入しました。

また、労働安全衛生マネジメントシステム^{※4}を導入している事業場では、新リスクアセスメントを導入し、内部監査を通じてマネジメントシステムの継続的改善に取り組み、さらなる安全衛生水準の向上および労働災害防止に努めています。



リスクアセスメント説明の様子

労働災害発生状況と休業度数率



- ※1 KYT
危険予知訓練のこと。K=危険、Y=予知、T=トレーニング。
- ※2 ヒヤリ・ハット
もう少しで災害となるニアミス事例を収集する活動。
- ※3 TSZ(Total Section Zero)
関連する部署が一体となって災害をゼロにする当社の安全活動。
- ※4 労働安全衛生マネジメントシステム
組織的・安定的な安全衛生管理を推進するため「計画・実施・評価・改善」という一連のプロセスを明確にした連続的・継続的に災害ゼロから危険ゼロの職場を目指すための仕組み。

快適職場形成

快適職場指針の実現に向け、作業環境・作業方法・環境設備などの各項目について、組織的・計画的に改善活動を行っています。また、より働きやすい職場をつくるため、休憩所・トイレ・喫煙所・食堂などについての改善、施設のユニバーサル化も進めています。



■ 職場での改善事例
約20kgのカゴを取り出す際、腰を折り曲げての作業は腰痛を発症しやすい状況であったため、アシスト装置を設置することにより作業の軽減を図りました。

安全運転講習会を開催

当社は従業員の業務・通勤・私用すべての交通事故を防止するため、さまざまな取り組みを行っています。群馬製作所と東京事業所では従業員が地元警察白バイ隊の指導のもと、二輪車安全交通教室を開催し、安全運転基本講習と実技指導を行っています。

また、群馬製作所では、職場の自主的な交通安全活動の一環として安全運転体験教室を実施しています。運転者だけの訓練でなく、歩行者から見た運転者の危険行動や正しいタイミングでの右折の仕方など、異なる視点での教育訓練を実施しています。



2010年5月二輪車安全運転教室

謹んで震災のお見舞いを申し上げます

このたびの東日本大震災で、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。
弊社といたしましてもグループ全体で、支援に取り組んでまいります。

東日本大震災復興支援

被災地への支援に向けた当社の取り組み

当社は、2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災した地域へ、海外を含めた当社グループ全体として1億円を超える義援金の寄付と、当社製品であるスバル発電機、投光機、清水用ポンプ、泥水用ポンプ、合計約200台(5,000万円相当)の無償提供を行いました。

また、当社従業員からは現地で支援をしたいという声が多く寄せられ、これを受けて当社では、ボランティア休暇制度を新設いたしました。この制度を利用し、従業員が被災地でのボランティア活動を行っています。

また、宮城県石巻市に対し、物資運搬に使う公用車向けに、当社の群馬製作所内で社用車として使用しているサンバートラック10台を無償貸与し、併せて、安全靴、作業着、シート、ロープなどの物資を提供しました。車両と物

資は4月16日に群馬製作所に勤務する従業員などの運転により現地にお届けしました。この支援は、石巻青年会議所と交流があり、現在も石巻市で支援活動を続けている、太田・桐生青年会議所からの協力要請に太田市と太田市内に工場を持つ当社が応えたものです。なお、太田市からはインプレッサの青パト(青色回転灯装備車)20台が無償貸与され、当社の車両、物資とともに現地に届けられました。また、宇都宮エコテクノロジーカンパニーでは、塵芥収集車への被害も大きかった宮城県へ塵芥収集車6台を派遣し、復旧活動を支援しています。

グループ企業による各社製品の提供や、販売特約店による義援金、救援物資の寄付、チャリティーイベントの開催、海外グループ企業からも多くの寄付が寄せられました。



被災地に運ばれる発電機など



無償貸与されたサンバー



被災地へ運ばれる支援物資



塵芥収集車6台を派遣

震災に伴うお問い合わせ

当社では本震災に伴う各種ご案内、お問い合わせ窓口を開設しております。
詳しくは当社ホームページをご確認ください。



<http://www.fhi.co.jp/news/info/index.html>

クレジットに関するお問い合わせ窓口

被害に遭われましたお客様の弊社商品(クレジット・リース)についてのお問い合わせ・ご相談を下記連絡先にて承っておりますのでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

スバルファイナンス株式会社 お客様相談室

フリーダイヤル：0120-386-506

受付時間 9:00~12:00、13:00~17:00

その他のお問い合わせ窓口

お客さまにご愛用いただいているスバル車について、お困りのこと、ご不明な点はSUBARUお客様センターへご連絡くださいますようお願い申し上げます。

SUBARUお客様センター

SUBARUコール：0120-052215

受付時間 9:00~17:00(平日)
9:00~12:00、13:00~17:00(土日祝)

地域に感謝の気持ちをこめて

スバルグループでは環境活動、交通安全活動、地域貢献活動をCSRの3本柱として定めるとともに、「社会貢献方針」を制定して、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

社会貢献方針

- 私たちは、科学技術やのりもの文化の発展、交通安全の普及に貢献します。
- 私たちは、ものづくりの楽しさ、大切さや尊さを知る、人づくりに貢献します。
- 私たちは、私たちが活動する地域の発展に貢献します。
- 私たちは、一人ひとりよき市民として、社会に貢献することを互いに応援します。

乗り物文化、交通安全

交通安全普及活動

当社では交通安全を自動車メーカーとしての責務と考えており、地域の交通安全への取り組みとして、さまざまな活動を実施しています。

宇都宮製作所では2010年2月、県内にお勤めのヤングドライバー400名を対象に、栃木県警本部と安全運転管理者協議会と共催でヤングドライバー・セイフティ・クラブ研修を実施し、当社の「EyeSight」の機能や安全性についての講演を行うなど、地域の交通安全、事故防止活動を推進しました。また、4月と9月には制作所周辺の通学路で交通安全指導を行い、地域の交通安全活動に取り組んでいます。



通学路での交通安全指導



ヤングドライバー・セイフティ・クラブ研修

スバルビジターセンター

スバルビジターセンターは2003年7月15日にオープンし、工場見学などで矢島工場に訪れるお客さまにスバルの歴代のクルマや世界記録を樹立したクルマ、スバルの個性的な技術や環境への取り組みなどを展示し、紹介している施設です。2010年度は102,995名のお客さまにご来場いただきました。



見学の申し込み(10名~200名)、スバルビジターセンターの詳細については、当社ホームページをご覧ください。



<http://www.subaru.jp/about/showroom/vc/index.html>



スバルビジターセンター

ものづくり、人づくり

群馬製作所の環境教室

群馬製作所のスバル環境交流会「環境教室」は、小学校の総合学習の一環として、生徒に地球環境への理解を深めてもらうことを目的に、2004年から行われています。この授業は、当社の従業員が近くの小学校を訪問し、映像を使用したり、温暖化の実験を行うなど、小学生が興味を持って授業を受けることができるよう工夫されています。2010年度は全58回の授業が行われました。



環境教室の様子

修学旅行での会社見学受け入れ

当社では、年間を通じて10件程度、修学旅行で東京を訪れた中学・高校生を対象に、会社見学の受け入れを行っています。これは中高生の社会科学習の一助となることを目的に行われ、会社の仕組みや、従業員の一日、クルマをお客さまへお届けするまでのさまざまな仕事の紹介をしています。このような取り組みは参加した教育機関からも高い評価をいただいております。今後も継続して受け入れを行ってまいります。



学生からのお礼状など

地域貢献

「スバル地域交流会」活動

スバル地域交流会は当社群馬製作所とのお取引先からなる組織で、太田市と周辺地域住民との相互交流ならびに地域発展を図り、「住み良い街」づくりに貢献することを目的としています。

■2010年度の主な活動

- 交通遺児に奨学金贈呈(4月)
- おおた芝桜まつりに協力(4月)
- 金山清掃(5月)
- 「花いっぱい運動」花の苗配布(5月、9月、12月、3月)
- チャリティーふれあいコンサート(6月、11月、2月)
- 福祉寄付(7月)
- 交通安全教室(9月)
- 太田市スポレク祭協賛(10月)

詳細については、スバル地域交流会ホームページをご覧ください。
 なお、国内関連企業部会参画の(株)イチタン、(株)桐生工業、(株)スバルロジスティックスの3社は本交流会の会員となっています。



<http://www.chiiki-kouryuukai.com/>



■チャリティーコンサートの様子
 スバル地域交流会で実施している「ふれあいコンサート」ではタオル、石鹸、日用品などをお客さまより、お持ちいただき、それらを福祉協議会へ寄付する活動を行っています。

地域清掃活動

2010年7月、宇都宮製作所では、労働組合主催でクリーンキャンペーンと題し、従業員約400名が製作所周辺の駅、施設などを中心にごみ拾いや草刈作業などを行いました。この活動は今年で20年目を迎えますが、今後とも地域の美化活動への取り組みを継続していきます。



清掃活動の様子

ボランティア支援活動

ボランティア表彰

当社では社会貢献方針に、従業員一人ひとりが市民として行う社会貢献活動を応援することを明記しています。これは、従業員が積極的に社会貢献の意識を持つことにより、社会に貢献する風土を全社に根付かせることを目的としています。これを具現化する取り組みとして、プライベートの時間を使ってボランティア活動をしている従業員を表彰する制度を2006年に創設し、2011年6月2日には第6回目となる表彰式を開催し、これまでに17名の従業員がボランティア表彰を受賞しました。

このほか、イントラネットにボランティア情報を掲載する

専用サイトを設けるなど、さまざまな機会をとらえて従業員のボランティア活動の支援を行っています。



2010年度ボランティア表彰受賞者：前列左から津久井さん、綿貫さん、高橋さん、川島さん

社会とのかかわり ー海外での取り組みー

スバルグループでは、それぞれの地域に根付いた社会貢献活動を、グローバルに展開しています。

【主な海外拠点】

SRD: Subaru Research & Development, Inc.
SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.
SCI: Subaru Canada, Inc.
SOA: Subaru of America, Inc.

Subaru of America, Inc.での取り組み

社会 地域の食糧難根絶に向けて

2009年に地元の農業団体やフードバンクとともに設立された都市型農園“SUBARU the Love Garden”で従業員により育てられた多くの食料が、地元の食糧難の救済に役立てられています。また、SOAでは36以上の団体と提携し、従業員による食料寄付などのボランティア活動が広く行われています。2010年5月にはその貢献が称えられ“Food Bank of South Jersey”より感謝状が贈られました。



SUBARU the Love Gardenの様子

交通安全 交通安全の取り組み

アメリカでは15歳～20歳の運転者の死亡事故の割合が多く、若年層の事故削減が大きな課題となっています。

SOAではそうした事故をなくし、だれもがクルマ社会で安全に生活ができるよう、従業員の家族やクルマを運転する若い世代を対象に、交通指導やワークショップの開催を各地で行っています。



若年層への交通安全講習(Alive at 25)の様子

教育 生物多様性教育

地域の子もたちへ、普段学習する機会の少ない生物や生態系についての理解を深めることを目的に、SOAではさまざまな教育を行っています。2010年度は地元の水生生物に焦点を当てた生物多様性について、教育の機会を提供しました。

▶詳しくはP41をご覧ください。

Subaru Canada, Inc.での取り組み

社会 ドラゴンボート大会に従業員チームが参加

乳がんの社会への広い認知とチャリティーを目的に開催されている“ミシサーガドラゴンボート大会”へ従業員から成る2チームが参加しました。ドラゴンボートは1チーム約20人の編成で行われる競技で北米を中心に近年普及しています。第7回目となるこの大会で、スバルカナダチームNo.1が終盤の白熱した激戦を制し勝利を収めました。この大会で全参加チームから総額で15,000カナダドルが寄せられ、地元カナダの乳がん活動団体へ寄付されました。



激戦を制した“スバルカナダチーム No.1”

社会 マクドナルドハウスでのボランティア活動

親元を離れ長い闘病生活を余儀なくされた子どもたちが、病院の近くで家族と一緒に生活できることを目的に設立されたマクドナルドハウスではSCI従業員による“夕食づくり”のボランティア活動が行われています。参加者は食

材を持ち寄り、だれもが利用可能な冷蔵庫に保管したり、またそれらを使い、病院に通う両親に代わってハウスに残された家族へ夕食をつくる活動を行っています。



施設に滞在する子どもとスバルカナダの従業員

地域 地域清掃活動

北米では環境への意識向上や環境活動の啓発を目的にした“Earth Day(地球の日)”が広く定着しています。スバルカナダでもこのEarth Dayに、販売店対抗による清掃キャンペーンがそれぞれの地域で実施されました。また、SCIIは本社のあるミシサーガの“Litter Not(ごみゼロ)プログラム”という地域清掃活動にも参加するなど、多くの地域での環境保全や緑化に貢献しています。



“Litter Notプログラム”へ参加する従業員

- 交通安全** のりもの文化の発展や交通安全の取り組み
- 教育** 環境やものづくりの楽しさ、尊さを知る取り組み
- 地域** 地域の発展や地域に根ざした取り組み
- 社会** 一人ひとりが社会に貢献する取り組み

Subaru of Indiana Automotive, Inc.での取り組み

社会 “48hrs of Tri State”チャリティーツアー

SIAでは地域の支援を目的としたさまざまなチャリティーイベントを開催しており、2010年1月には“48hrs of Tri State”チャリティーツアーを開催しました。これは一般のスバル車オーナーが、SOA本社のあるニュージャージー州からSIA本社のあるインディアナ州まで48時間のキャラバンツアーを行うもので、10回目となる今回は58台のスバル車がSIA本社に集結し、研修センター社員食堂でのランチや工場見学などを行いました。この活動で得られた収益金や、参加者からの募金はアメリカのがん学会へ寄付され、がんの治療研究などに役立てられています。



SIA本社に集結した参加者

社会 チャリティーウォーク ～小さな一歩が大きな夢につながる～

2010年7月にはチャリティーウォーク～小さな一歩が大きな夢につながる～を開催し、総勢約500名が参加しました。参加費等の収益全額のほかにSIA提供の約4万

ドルの資金は、地元ラファイエットの児童擁護施設へ届けられました。次回チャリティーウォークでの収益金は障がいを持つ子どもたちが遊ぶことができる公園の遊具の建設にあてられる予定です。このほかにも、SIA従業員はさまざまなチャリティーイベントへの参加や募金など、障がい者支援をはじめとした多くの社会貢献活動に参加しています。



チャリティーウォーク“Small Steps...Big Dreams”の様子

地域 地域清掃活動

インディアナ州と日本を結ぶ強い絆と日本文化の紹介を目的としたイベント、“Bridge to Japan”～日本への架け橋～にて、SIAはメインスポンサーを務めました。SIAが折り紙などの伝統文化や、日本の一般家庭での環境への取り組みを紹介したこのイベントの来場者数は、17日間で9万人にもものぼり大盛況となりました。SIAはインディアナと日本を結ぶ日米協会のパートナーとして、地域の交流に貢献しています。



“Bridge to Japan”で日本の文化を紹介

Subaru Research & Development, Inc.での取り組み

教育 学生のインターンシップ

アメリカの学生に日系企業の理解を深めてもらうことを目的に、SRDではインターンシップを実施しています。この活動では、一般的なオフィス対応のほか、若者の自動車意識のリサーチなど、さまざまな業務体験の機会を提供しています。さらに、2010年度はSRDデザイン部がインターンシップの受け入れを実施、スポーツカーや次期アウトバックのデザイン体験の機会提供をしました。このようなインターンシップ受け入れはアメリカの学生からも高い評価を受けています。



デザイン部で行われたインターンシップの様子

教育 生物多様性教育

SRDでは、子どもたちへ生物多様性についての理解を深めるため、さまざまな活動を行っています。2010年度は

敷地内へコウモリの家を設置するなどの活動を行いました。

▶この活動の詳細はP64をご覧ください。

社会 Food Drive運動

アンナーバー地域から食糧難を減らすために、SRDは地元の団体(Ann Arbor Food Gathers)と共同でFood Drive(低所得者に対し食料寄付などを行う助け合い運動のひとつ)運動を行っています。2010年度は41.8kgの食料に加えて65食分の食料寄付を行い、地元の食糧難の救済に役立てられました。



Food Driveに参加するSRDの従業員

お取引先とともに

共存共栄できる関係づくり

スバルは、企業理念の実現のため、高品質で環境にやさしくコストパフォーマンスに優れた部品や原材料、設備の調達を目指しています。そのためには、お取引先と当社が対等な立場で相互に信頼し、切磋琢磨し、共存共栄できる関係をつくることが重要だと考えています。

お取引先とともに

調達基本方針

スバルでは、以下の基本的な考え方のもと調達活動を推進しています。

(1) コンプライアンス&グリーン調達

私たちは、人・社会・環境の調和を目指した調達活動を行い、法令・社会規範の順守と環境保全に配慮した取引に努めます。

(2) ベストパートナーシップの構築

私たちは、信義誠実の原則に従った相互信頼の取引関係を基本として、お取引先様と「WIN-WIN」の関係を築いていきます。

(3) フェアでオープンな調達先の選定

お取引先様の選定にあたっては、国内外すべての企業に広く門戸を開き、常に公平・公正を期すとともに、品質・コスト・納入・技術開発・マネジメント・環境の6つの視点から最も優れた物品・サービスの調達に努めます。

適正取引の推進

当社では従来より、独占禁止法、下請代金支払遅延防止法などの調達業務に関連した法令の順守に取り組んできました。また、2007年6月に経済産業省が公表した「自動車産業適正取引ガイドライン」の適正取引推進活動も行っています。その一環として、当社のサプライチェーンのお取引先を対象とした相談窓口を設置しています。

適正取引推進相談窓口については、
当社ホームページをご覧ください。



<http://www.fhi.co.jp/csr/mecenat/supplier.html>

CSR調達への取り組み

当社ではCSR活動をサプライチェーンの皆さまとともに推進していくため、安全・品質、人権・労働、環境、コンプライアンス、情報公開の各項目を織り込んだCSR調達ガイドラインの発行を予定しています。



品質方針説明会や購買方針説明会などを通じて、お取引先とのコミュニケーションを図り、コンプライアンス相談窓口もご案内しています。

積極的な情報開示に努めます

株主・投資家の皆さまに対しては業績、計画などを積極的に開示し、スバルへの理解を深めていただくとともに、皆さまにご支援していただけるよう、より魅力的な企業となるために企業価値の向上を目指していきます。

株主・投資家の皆さまへの積極的な情報開示

積極的な情報開示

当社のホームページには「株主・投資家の皆様へ」のページを設けて、当社の最新IR情報を提供しています。また、ご登録いただいた皆さまに決算情報などのIRに関する新着情報をEメールにてお届けするIRメール配信(無料)には現在800名余りの方が登録されています。さらに携帯電話向けIRサイトも開設しています。

また、当社のIRサイトは日興アイ・アール株式会社が主催する「2010年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」(対象企業約4千社)で4年連続で業種別1位に選ばれたほか、ゴメス・コンサルティング株式会社の「IRサイトランキング2011」でも5年連続で業種別1位となりました。



ホームページ

FINANCIAL REPORT 2011

最新IR情報は当社ホームページをご覧ください。



<http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

個人投資家向け説明会

当社では個人の投資家の方々を対象とした会社説明会を開催しています。当社の歴史から最近の業績までわかりやすくご説明させていただくとともに、質疑応答などにより、当社への理解を深めていただくよう努めています。今後も定期的に開催していく予定です。

株主様工場見学会の開催

株主さまを対象とした「株主様工場見学会」を、年1回実施しています。この見学会は株主の皆さまに、当社生産活動の生きた現場をご覧いただき、当社の企業方針や日ごろの生産活動に対するご理解を深めていただくことを目的としています。工場見学会後には、株主さまから貴重なご意見を承るために、質疑応答の時間を設けています。ここでは当社役員とのコミュニケーションを図っていただくとともに、いただいたご意見は、今後の私たちの課題として、社内で検討し改善に役立てていきます。



株主様工場見学会の様子



当社への理解を深めて
いただくために

株主さま、投資家の皆さまには日ごろよりご支援を賜り深く感謝申し上げます。私どもは皆さまに積極的な情報開示を行っていくことにより、当社へのご理解を深めていただくよう努めています。そのためにホームページの充実を図り、読みやすい資料をご提供するとともに、株主さまを対象とする工場見学会を実施し、当社の生産活動に対するご理解を深めていただいています。